

令和元年度全国学力学習状況調査報告を受けて

〈教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析〉

○国語の調査結果にみられる特徴と現状

すべての項目で全国平均を上回っています。全体的なバランスを見ると、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、短答式の結果が他の項目と比べるとやや低い傾向にあります。この結果をみると、古典分野にやや苦手意識が見られます。

○数学の調査結果にみられる特徴と現状

すべての項目で全国平均を上回っています。記述式の問題や関数の結果が高い傾向にあります。本校ではこのようなじっくりと考えて取り組む問題を得意とする生徒が多いです。しかし、全体的なバランスでみると、短答式や選択式の問題は全国平均は上回っているが、記述式に比べると低い傾向にあります。これにはよく考えずに問題をといてしまい、単純なミスが多くなったと考えられます。

○英語の調査結果にみられる特徴と現状

すべての項目で全国平均を上回っています。特に記述式、短答式の結果が高い傾向にあります。しかしながら、全体的なバランスでみると、聞くことの力がやや低く、リスニング等で英語を聞き、それを活用して話すといった英語のコミュニケーション力に苦手意識があります。

〈質問紙調査の結果にみられる特徴と現状分析〉

○学校質問紙調査の結果にみられる特徴と現状

全国平均と比べて、国語科の指導方法、授業改善、生徒指導、教職員の資質能力の向上において、やや低い傾向が見られました。今後は、国語に限らず、授業における指導方法を創意工夫して、教員の資質を高めて、より良い授業を目指すこと、個々の生徒への丁寧な対応等よりきめ細やかな生徒指導体制を構築していくことが大切になります。

○生徒質問紙調査結果にみられる特徴と分析

すべての項目で全国平均の値とほぼ同値であり、生徒の学習への関心の高さが伺えます。また、生活習慣や学習習慣、規範意識も高い値です。しかしながら、頭ではわかっているが行動が伴わないことが多々見られます。今後も生徒の実際の行動まで改善していくことが目標となります。自己有用感については、昨今自信がない生徒が多いため、高いことは良いことであり、今後自信を持って行動できる生徒を目指したいと思います。

〈改善策・検証方法〉

○改善目標

- ①教員の資質向上・授業改善に取り組みます。
- ②生徒指導におけるよりきめ細やかな対応を教職員全体で考えます。

○改善方策

- ①10月と1月に校内授業研究を行い、より良い授業を目指して、意見を出し合い、授業力を向上させます。
- ②月1回の職員会議や、週1回の運営委員会で生徒指導の方針を明確にして、時代の流れも考え、よりきめ細やかな配慮等について先生方で知恵を出し合いしたいと思います。

○検証方法

- ①校内授業研究を通して、教科で授業の反省を行い、講師の指導を踏まえて授業改善に努めます。
- ②生徒の自主性や行動力についての評価は難しいが、日々の集会や行事(体育祭9月、生徒会選挙・文化学習発表会10月、合唱コンクール11月、3年生を送る会・卒業式3月)で生徒が主体となってスムーズに進められているか、生徒が意欲的に取り組んでいるかといった視点で検証していこうと考えています。